

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌の報告が1例あります。本年の累積報告数は、50例です。型別にみると、O26 31例(内、集団発生1件 22例)、O145 3例、O157 16例となっています。
- ヘルパンギーナの定点当たり報告数は1.76で、これは先週(1.83)に次いで多い報告数です。年齢階級別でみると、2歳が20例(27.8%)と最も多く、次いで1歳が16例(22.2%)となっています。
- 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.59で、これは本年度で最も多い報告です。年齢階級別でみると、1歳及び3歳が、各6例(25.2%)と最も多くなっています。
- 百日咳の報告が、先週に引き続いて1例あります。本年の累積報告数は33例で、平成12年～平成19年の同時期(8例～22例)と比べて最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス:<手足口病>

- 手足口病の第28週の定点当たり報告数は2.68で、本年度で最も多く、第20週以降、増加傾向にあり、過去5年平均値を上回る状況が続いています。
詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT1VT2) 1例【1月以降の累積報告数 50例】
- 四類: レジオネラ(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 14例】
- 五類: 麻疹 9例【1月以降の累積報告数 91例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.01	1
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.95	121
	② 手足口病	2.76	113
	③ ヘルパンギーナ	1.76	72
	④ 水痘	1.00	41
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.66	27
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

病原体情報

ありません。

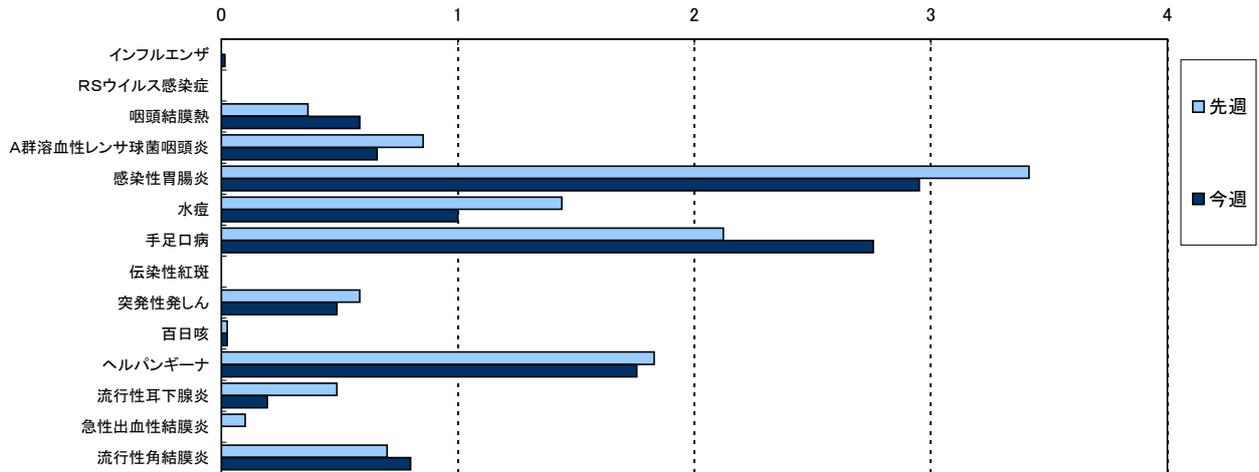
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<手足口病>

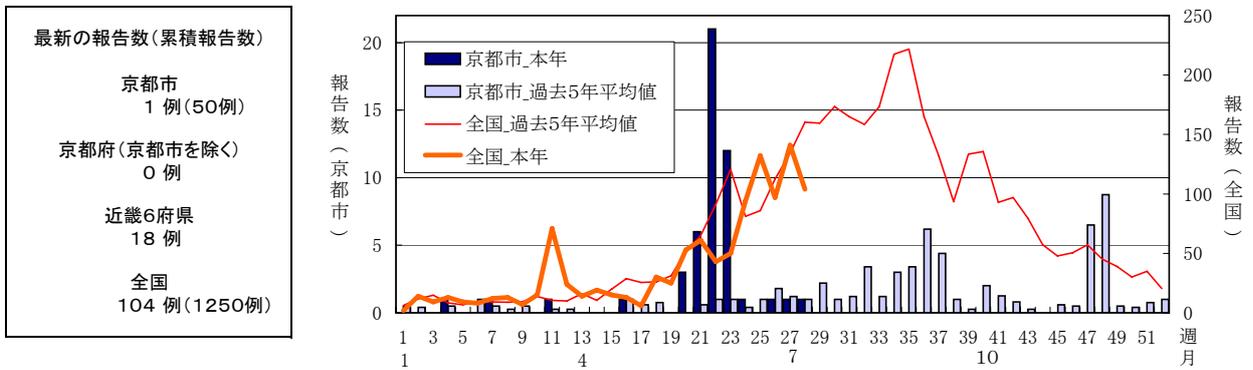
(注) 京都市のデータは、平成20年7月17日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第28週)と先週(第27週)の定点当たり報告数の比較

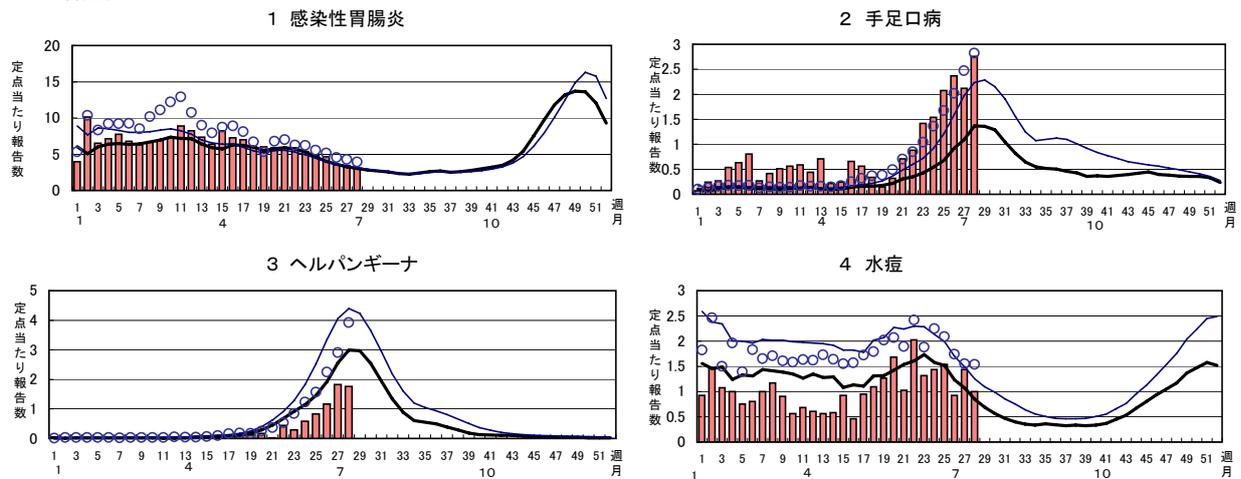


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

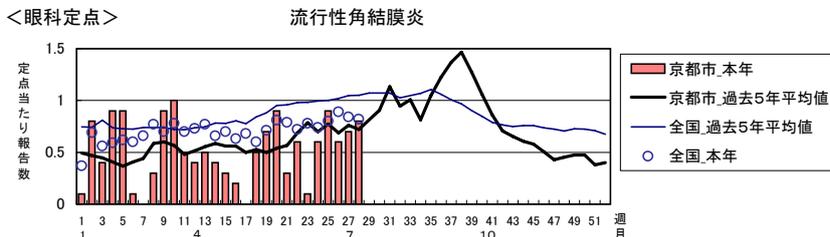


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第28週)のトピックス: <手足口病>

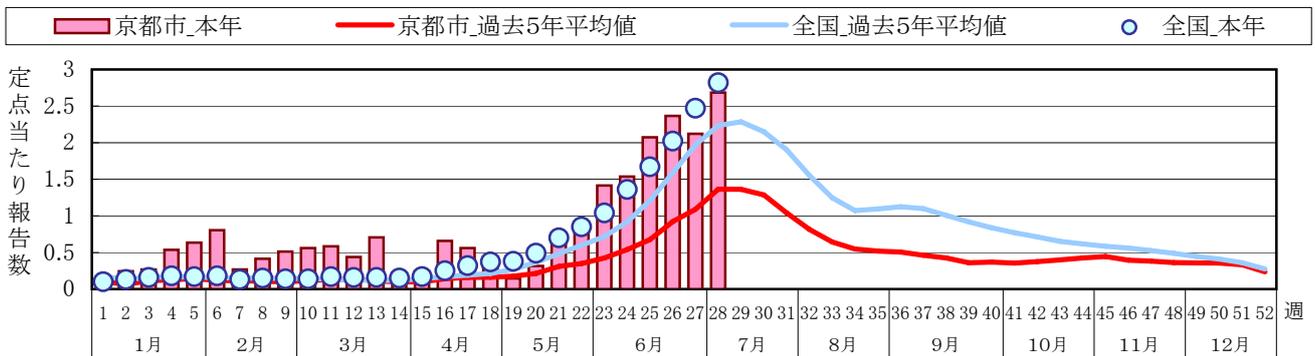
手足口病の第28週の定点当たり報告数は2.68で、本年で最も多く、第20週以降、増加傾向にあり、過去5年平均値を上回る状況が続いています。

平成9年以降の、本市の定点当たり報告数の推移をみても、定点当たり報告数が2.0を超えるのは、平成15年以降のことです。

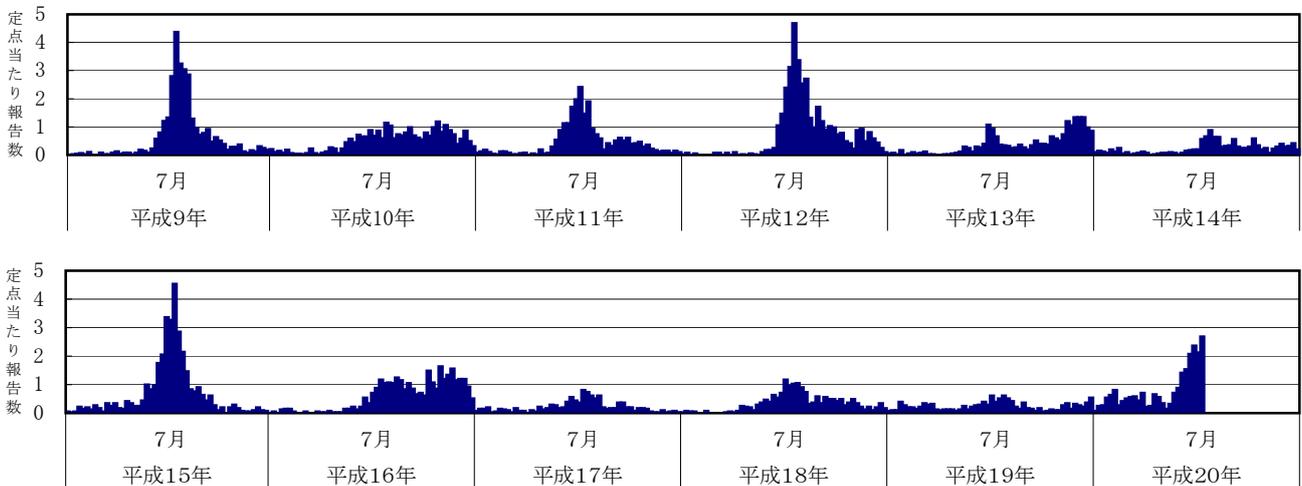
第28週の都道府県別定点当たり報告数では、京都府は全国的には13番目の報告数ですが、近畿二府四県の中では、最も多くなっています。

手足口病は、コクサッキーウイルスA群10型、16型、エンテロウイルス71型などが病因となりますが、本年については、7月17日現在、国立感染症研究所感染症情報センターの病原微生物検出情報によると、手足口病由来ウイルスとして、コクサッキーA群16型が多く検出されています。(http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/s2graph-kj.html)

定点当たり報告数の推移(平成20年第1週～第28週)



本市の定点当たり報告数の推移(平成9年～平成20年第28週)



都道府県別 第28週 定点当たり報告数

